

しおがままちあるき 塩竈の塩ルーツ探訪

全国に100社あまりあるという鹽竈(塩釜)神社の源となる神社は、為政者でも武辺の者でもない生活になくなくてはならない『塩』を造る神様を祀った神社でもありました。その時代から連綿と続いてきている塩すなわち潮、にも繋がる港町・塩竈のもうひとつの顔を覗いてみませんか。

観光物産案内所	30分	① 鹽竈神社・別宮	5分	② 鹽竈神社博物館	15分	③ 御釜神社(神釜)	10分	観光物産案内所	所要時間 (見学時間含む) およそ 90分
---------	-----	-----------	----	-----------	-----	------------	-----	---------	--------------------------------



塩竈の藻塩

塩造りの神様の伝承のみならず、古代より塩竈では実際に製塩事業が盛んに行われていました。

『藻塩』とは古代の製塩の製法で、海藻(ホンダワラ)を通した海水を煮詰め灰汁などを丁寧に取り除きながら精製した、様々なミネラルの旨みも同時に感じられるまろやかな口当たりの塩です。

鹽竈神社の境外末社である御釜神社の『藻塩焼神事』では、この古代製法に則って『藻塩』が三日間かけて作られ、鹽竈神社に奉納されます。

この『藻塩焼神事』の製法に倣い製造されているのが『塩竈の藻塩』です。

藻しお姫



『塩竈の藻塩』は主に塩竈市内の各店舗でお買い求めいただけます。また、塩竈市内の菓子店では藻塩を使った様々な塩スイーツを販売しています。ひと味違う『甘さをより引き立てるしょっぱさ』の効いたスイーツの食べ歩きも楽しいですよ！！

藻塩を使ったクッキーやロールケーキ、チョコレートなど種類も豊富です！



① 鹽竈神社・別宮

唐門をくぐり正面にある右宮・左宮の拝殿の右手には別宮の拝殿があり、こちらには『鹽土老翁神(しほつちおぢのかみ)』が主祭神として祀られています。

鹽土老翁神は経津主神(ふつぬしのかみ)・武甕槌神(たけみかづちのかみ)(右宮・左宮がそれぞれを祭祀)をこの地まで案内し、その後この地に留まり漁業や製塩方法を人々に伝えたと言われています。

その謂われから塩の神、安産の神として古くから庶民の信仰を集めています。



② 鹽竈神社博物館

鹽竈神社の宝物を中心に、伊達家による奉納の品々や、鹽竈神社を参詣した文人墨客の資料、帆手祭りやみなと祭に使われる豪華華麗な神輿などを展示しています。

2階では、御祭神にゆかりの深い塩業関係資料や、古代の製塩法を再現する『藻塩焼神事』の様子を映像にてご覧いただけます。また、屋上展望台からは松島をはじめ仙台湾の景色を一望できます。

※入館料 大人200円



③ 御釜神社(神釜拝観)

『塩竈』の地名の由来となった、古代製塩に用いられた神釜が祀られています。内部に張っている水はあられることもなければ干上がることもなく、またこの地の有事の際には水の色が変わると伝えられており、故に兵庫県・生石(おうしこ)神社『石の宝殿』、宮崎県・霧島東神社の『天逆鈴』と並んで『日本三奇』のひとつに数えられています。毎年7月4日～6日には『藻塩焼神事』が行われます。

※神釜拝観料 100円

